

米、イラン核施設攻撃



【ワシントン共同】トランプ米大統領は21日、自身の交流サイト（SNS）で、米軍がイランの三つの核施設を攻撃したと明らかにした。攻撃は「大成功だった」とした。イスラエルが要請していたとされ、同国による13日の空爆開始後、米国の攻撃参加は初めて。イランが報復として中東にある米軍基地を狙い、戦火が拡大する恐れがある。

戦火拡大の恐れ トランプ大統領「大成功」 SNSで表明



トランプ米大統領
(ゲッティ=共同)



攻撃した核施設はイラン中部のフォルドウ、ナタンズ、イスファハンの三つ。トランプ氏はフォルドウの地下深くにあるウラン濃縮施設に「火薬を満載した爆弾を投下した」と主張。攻撃に関わった全ての米軍機はイラン領空外に移動し、安全だと説明した。

トランプ氏は21日午後10時(日本時間22日午前11時)からホワイトハウスでイラン攻撃について国民に向けて演説すると明らかにした。

ロイター通信は21日、米政府関係者の話として、イランの核施設攻撃にB2ステルス戦略爆撃機が関与したと報じた。B2爆撃機は、フォルドウのウラン濃縮施設を破壊できる「唯一の手段」とされる大型の特殊貫通弾(バンカーバスター)の運搬が可能とされる。

写真① イラン中部フォルドウの核関連施設の衛星写真② 14日(マクサー・テクノロジー)提供、ゲッティ=共同

写真③ トランプ米大統領の投稿(SNSから)

米イラン関係 1979年のイラン革命で親米の王制が倒れ、翌80年に断交して以来、敵対関係が続く。米国は84年にイランをテロ支援国家に指定。2002年にイランの核兵器開発疑惑が発覚した。オバマ政権下の15年に核開発制限と制裁解除をセットにした核合意が成立したが、第1次トランプ米政権が18年に合意を離脱し制裁を再開。イランは合意逸脱を重ね、対立が深刻化した。米軍は20年1月、イラクでイラン革命防衛隊の精鋭「コッズ部隊」のソレイマニ司令官を殺害、軍事的緊張が高まった。